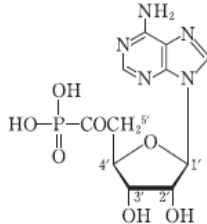
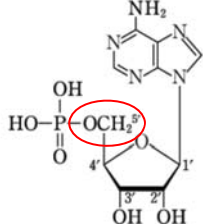
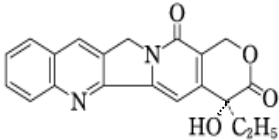
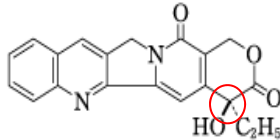
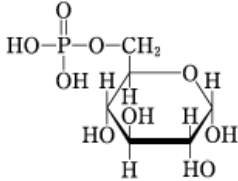
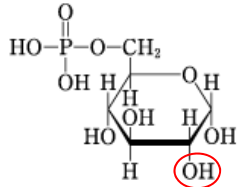
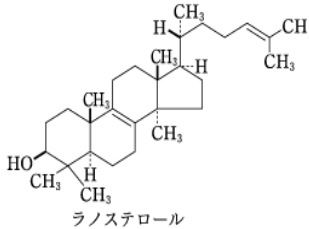
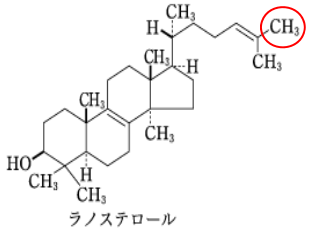


ページ数	見出し語	誤	正
前見返し	周期表 12 族・7 周期	112 Uub* (285) ウンウンビウム	112 Cn* (285) コペルニシウム
p.4	亜鉛触媒 7 行目	いる。また, Zu-Ca(高温法)および Zn-Cu(低温法)	いる。また, Zn-Ca(高温法)および Zn-Cu(低温法)
p.12	アザシクロヘキサン	=ピペリジン	=ピペリジン
p.23	アセテート繊維 2 行目	の酢酸エステルである酢酸セルロール*からなる人	の酢酸エステルである酢酸セルロース*からなる人
p.33	アデニル酸 【1】の図	 <p>(1)AMP</p>	 <p>(1)AMP</p>
p.38	アノード 5 行目の式	$2\text{OH}^- \longrightarrow \frac{1}{2}\text{O}_2 + \text{H}_2\text{O} + 2\text{e}^-, 2\text{H}^+ + 2\text{e}^- \longrightarrow \text{H}_2$	$2\text{OH}^- \longrightarrow \frac{1}{2}\text{O}_2 + \text{H}_2\text{O} + 2\text{e}^{\ominus}, 2\text{H}^+ + 2\text{e}^{\ominus} \longrightarrow \text{H}_2$
p.52	アラキドン酸カスケード 9 行目	ゼ*が, ロイコトリエン経路にはリポキシゲナーゼ*	ゼ*が, ロイコトリエン経路にはリポオキシゲナーゼ*
p.57	RNA ポリメラーゼ 4 行目	オチド三リン酸*を一リン酸の形で結合させ, RNA	オシド三リン酸*を一リン酸の形で結合させ, RNA
p.65	アルダル酸 2 行目	酸, グルカリ酸ともいう。アルドース*の両末端に	酸, グリカル酸ともいう。アルドース*の両末端に
p.75	アレーン 3 行目	合芳香族環(ナフタレン*, アントセラン*などの多環)	合芳香族環(ナフタレン*, アントラセン*などの多環)
p.80	安定度定数 右段下から 9 行目	(アービング・ウィリアムズの系列*)	(アービング・ウィリアムズの系列*)
p.85	アンモニア 10 行目	すい型構造で, N-H 1.012Å, ∠N-H-N 107° . 融点	すい型構造で, N-H 1.012Å. ∠H-N-H 107° . 融点
p.95	イオン重合 17 行目	め, とくにカルボニウムイオン重合(末端イオンが	め, とくにカルベニウムイオン重合(末端イオンが

p.101	異性化重合 5行目	化は、成長カルボニウムイオンの安定性が推進力と	化は、成長カルベニウムイオンの安定性が推進力と
p.126	インドメタシン 3行目	$C_{19}H_{16}ClNO_4(357.79)$. p-メトキシフェニルヒドラ	$C_{19}H_{16}ClNO_4(357.79)$. p-メトキシフェニルヒドラ
p.132	ウエルスバッハ 9～10行目	ンスの G.Urbain(ユルバン*)の命名で, C.F.A. Walsbach(ウエルスバッハ*)はカシオビウムと名づ	ンスの G.Urbain(ユルバン*)の命名で, Welsbach はカシオビウムと名づ
p.140	ウルマン反応 11行目	銅粉 → 210%	銅粉 → 210°C
p.142	ウンウンクアジウム右段1行目	で原子番号 112 の元素(ウンウンビウム*)に α 崩壊	で原子番号 112 の元素(コペルニシウム*)に α 崩壊
p.142	ウンウンビウム	子項目に変更	<p>=コペルニシウム</p> <p>以下は新規項目のコペルニシウムの本文</p> <p>-----</p> <p>コペルニシウム [Copernicium]</p> <p>Cn. 原子番号 112 の元素. 電子配置[Rn]5f¹⁴6d¹⁰7s²(推定)の 12 族元素. 周期表で水銀の下に位置する(エカ水銀). 常温で液体と思われる金属元素. 短寿命人工元素. 1996 年 2 月にドイツ・ダルムシュタットの重イオン研究所(GSI)で, ²⁰⁸Pb を標的として ⁷⁰Zn で衝撃して, 中性子 1 個と半減期 0.28 ms で 110 番元素に α 崩壊する質量数 277 の核種 1 個が得られた. GSI の提案による元素名コペルニシウムが 2010 年 2 月に IUPAC により認められ, 元素記号も Cn と決定された. したがって, 112 を意味する暫定名ウンウンビウム, 記号 Uub は以後使われない.</p>
p.150	液体クロマトグラフィー10行目	るようになる. この方法を高速液体クロマトグラ	るようになる. この方法を高性能液体クロマトグラ
p.156	エタノール 1行目	$C_2H_5O(46.07)$.	$C_2H_6O(46.07)$.
p.161	X線 3行目	よばれる. X線は 1895 年, W.K.Röntgen(レントゲ	よばれる. X線は 1895 年, W.C.Röntgen(レントゲ
p.166	エーテル 1行目	【 I 】 ジエチルエチルエーテ	【 I 】 ジエチルエーテ

p.255	核磁気共鳴法 19 行目	交換 NMR*の登場により ^{13}C , さらに多核へと応用	変換 NMR*の登場により ^{13}C , さらに多核へと応用
p.258	核分裂生成物 5~12 行目	72 から 158 までにわたっている. 分裂生成物の質量数に対して, その核分裂生成率は, ある定まった双凸形の分布をしている. これらは β 線を放出して崩壊するので原子番号は時間が経つと変化するが, 質量数は変化しない. こうして生成された核分裂生成物のうち, ^{85}Kr , ^{90}Sr , ^{137}Cs , ^{149}Pm などの有用な元素は分離, 回収して放射線源, 熱源などに利用されている. →核分裂片	72 から 158 までにわたっている. 熱中性子による核分裂の場合の核分裂生成率は, 質量数に対して 95 と 140 付近をピークとする双凸形の分布をしている. これらは β 線と γ 線を放出して崩壊するので原子番号は時間が経つと変化するが, 質量数は変化しない. こうして生成された核分裂生成物のうち, ^{85}Kr , ^{90}Sr , ^{137}Cs , ^{147}Pm などの有用な元素は分離, 回収して放射線源, 放電管用電子源などに利用されている. →核分裂片
p.280	カフェイン	$\text{C}_8\text{H}_{10}\text{N}_2\text{O}_2$ (194.19)	$\text{C}_8\text{H}_{10}\text{N}_4\text{O}_2$ (194.19)
p.301	カールフィッシャー法	<p>固体, 液体, あるいは気体の試料中の水分を定量する容量分析法の一つ. カールフィッシャー試薬は, 通常, ヨウ素, 二酸化硫黄, およびピリジンが, モル比で 1 : 3 : 10 になるように混合してつくられる. しかし, この混合液は不安定なので, 一般にはピリジン 270 mL とメタノール 100 mL の混合液を氷冷しながら SO_2 を 46 g 吸収させた A 液と, 84.7 g の I_2 をメタノール 600 mL に溶解した B 液を別々につくり, A, B 液を使用直前に混合して用いられる. この試薬は水が存在すると, 次式に従って 2 段階で選択的, かつ化学量論的に 1 mol の I_2 と 1 mol の H_2O が反応する. 終点は I_2 による色の変化によって求める.</p> $\text{H}_2\text{O} + \text{I}_2 + \text{SO}_2 + 3\text{C}_5\text{H}_5\text{N} \longrightarrow 2(\text{C}_5\text{H}_5\text{NH})^+\text{I}^- + \text{C}_5\text{H}_5\text{NSO}_3$ $\text{C}_5\text{H}_5\text{NSO}_3 + \text{CH}_3\text{OH} \longrightarrow (\text{C}_5\text{H}_5\text{NH})^+\text{SO}_4\text{CH}_3$ <p>試料が着色しているときにはデッドストップ法で終点指示を行う自動滴定装置も市販されている.</p>	<p>固体, 液体, あるいは気体の試料中の水分を定量する容量分析法の一つ. ヨウ素と二酸化硫黄は, 2 当量の水と反応して硫酸と 2 当量のヨウ化水素を生成するが, ピリジンを利用してこの反応を行うカールフィッシャー法では, ピリジン 270 mL とメタノール 100 mL の混合液に氷冷下で SO_2 46 g を吸収させた A 液と, 84.7 g の I_2 をメタノール 600 mL に溶解した B 液を, 使用直前に混合して用いられる. この試薬は水が存在すると, 次式に従って 2 段階で選択的, かつ化学量論的に等 mol の I_2 と H_2O が反応し, SO_2 は硫酸モノメチルエステルとなって収束する.</p> $\text{H}_2\text{O} + \text{I}_2 + \text{SO}_2 + 3\text{C}_5\text{H}_5\text{N} \longrightarrow 2(\text{C}_5\text{H}_5\text{NH})^+\text{I}^- + \text{C}_5\text{H}_5\text{NSO}_3$ $\text{C}_5\text{H}_5\text{NSO}_3 + \text{CH}_3\text{OH} \longrightarrow (\text{C}_5\text{H}_5\text{NH})^+\text{SO}_4\text{CH}_3$ <p>終点は I_2 による色の変化によって求める. また, 試料が着色しているときにはデッドストップ法のような自動滴定装置も使用され, 多数の実験結果が報告されている.</p>

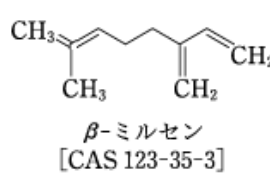
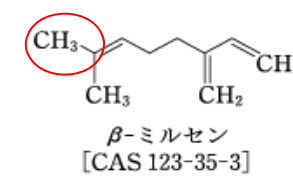
p.307	環化 13行目	ルボニウムイオンの求電子付加ではじまるポリエン	ルベニウムイオンの求電子付加ではじまるポリエン
p.312	干渉計 8行目	ルの複プリズム, ファブリー-ペロー干渉計*, ルン	ルの複プリズム, ファブリ -ペロー干渉計*, ルン
p.318	カンプトテシンの図		
p.338	キナ酸 右段 4行目	-42°C(水). ヘプター	-42° (水). ヘプター
p.364	ギルマンテスト 5行目	ン(Michler's ketone, 4,4'-ビス(ジメチルアミノ)ベ	ン(Michler's ketone, 4,4'-ビス(ジメチルアミノ)ベ
p.370	金属ケチル 4行目	う. たとえば, カルボニウム化合物をアルカリ金属,	う. たとえば, カルベニウム化合物をアルカリ金属,
p.402	グルコース 6-リン酸 の図		
p.406	クレブス 6行目	Warburg(ワールブルク*)のもとで呼吸酵素を研	Warburg(ワールブルク *)のもとで呼吸酵素を研
p.443	ゲラニルゲラニルニリン酸 7行目	性, 多環性ジテルペンが生成する. カロテイノド*	性, 多環性ジテルペンが生成する. カロテ ノ イド*
p.447	幻覚発現物質 4行目	には, インドール格骨をもつアミン類; プホテニン*,	には, インドール 骨 格をもつアミン類; プホテニン*,
p.453	元素 18行目	用)宇田川榕庵*が W.Henry(ヘンリー*)の著書	用)宇田川榕 菴 *が W.Henry(ヘンリー*)の著書
p.454	元素記号 15行目	久2年, 1862年)で, 元素記号として宇田川榕庵*の	久2年, 1862年)で, 元素記号として宇田川榕 菴 *の
p.498	コハク酸 2行目	C ₄ H ₆ O ₂ (118.09)	C ₄ H ₆ O ₄ (118.09)
p.501	コブラ毒 12行目	ぜ, プロティナーゼ, エステラーゼ, ペプチターゼ	ぜ, プロティナーゼ, エステラーゼ, ペプチ ダ ーゼ
p.513	混合原子価錯体 22~23行目	現れる. 多くの混合原子価錯体が濃い色をもっている原因があり, 光の吸収により一方の金属原子から	現れる. 多くの混合原子価錯体が濃い色をも つ 原因が これ であり, 光の吸収により一方の金属原子から

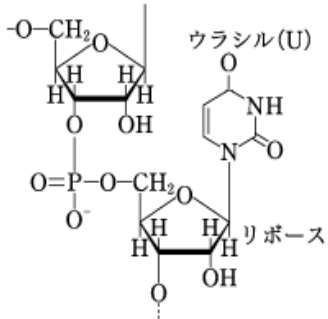
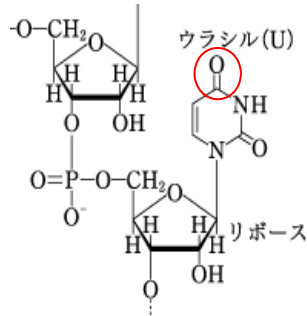
p.523	酢酸 1行目	$C_2H_4O_3$	$C_2H_4O_2$
p.532	サーミスター真空計 12行目	$1.3 \times 10^{-2} \text{ Pa}$ である.	$1.3 \times 10^2 \text{ Pa}$ である.
p.587	四極子モーメント 4行目とその次の式	ψ_i が作用するとき, 相互作用のエネルギーは, $u = \sum_i e_i \phi_0 + \mu_\alpha \left(\frac{\partial \phi}{\partial r_{i\alpha}} \right) + \frac{1}{6} \theta_{\alpha\beta} \left(\frac{\partial^2 \phi}{\partial r_{i\alpha} \partial r_{i\beta}} \right) + \dots$	Ψ が作用するとき, 相互作用のエネルギーは, $u = \sum_i e_i \phi + \mu_\alpha \left(\frac{\partial \phi}{\partial r_{i\alpha}} \right) + \frac{1}{6} \theta_{\alpha\beta} \left(\frac{\partial^2 \phi}{\partial r_{i\alpha} \partial r_{i\beta}} \right) + \dots$
p.601	脂質二重層 9行目	パク質の助けが必要である. →電子伝達系(呼吸)	パク質の助けが必要である. →電子伝達系(光合成)
p.611	質量分析計 17行目	計*, 飛行時間型質量分析計*, 高周波型質量分析計*,	計*, 飛行時間型質量分析計*, 高周波質量分析計*,
p.675	ジョリオ・キュリー 17行目	授となり, ヨーロッパ最初のサイクロトロン*を設置	授となり, ヨーロッパ最初のサイクロトロン*を設置
p.701	水性ガスシフト反応 4行目の後の式	$CO + H_2O \rightleftharpoons CO_2 + H_2 \Delta H_{298} = -40.3 \text{ kJ mol}^{-1}$	$CO + H_2O \rightleftharpoons CO_2 + H_2$
p.701	水性ガス反応 4~6行目	(1) $C + H_2O \rightarrow CO + H_2 - 123.0 \text{ kJ}$ (2) $C + 2H_2O \rightarrow CO_2 + 2H_2 - 81.2 \text{ kJ}$ (3) $CO + H_2O \rightleftharpoons CO_2 + H_2 + 40.2 \text{ kJ}$	(1) $C + H_2O \rightarrow CO + H_2$ (2) $C + 2H_2O \rightarrow CO_2 + 2H_2$ (3) $CO + H_2O \rightleftharpoons CO_2 + H_2$
p.702	水素 23行目	る元素で, 原子組成 90%以上, 重義組成でも 75%	る元素で, 原子組成 90%以上, 重量組成でも 75%
p.719	ステロイドの生合成 の図 中のラノステロールの図	 ラノステロール	 ラノステロール
p.729	スモーリー 2行目	(1943.6.6-) アメリカの化学者, 物理	(1943.6.6-2005.10.28) アメリカの化学者, 物理
p.739	生体膜 12行目	という. →電子伝達系(呼吸)中の図	という. →電子伝達系(光合成)中の図
p.761	セルロース 5行目	化学式は $(C_6H_{10}O_5)_n$ で示される.	化学式は $(C_6H_{10}O_5)_n$ で示される.

p.768	遷移元素 12行目	ム, 水銀, (112番ウンウンビウム)を加えることも	ム, 水銀, (112番コペルニシウム)を加えることも
p.769	遷移モーメント 3行目	メントを er とするとき, $\int \rho_m^* \mathbf{er} \rho_m d\tau$ を状態 n, m	メントを er とするとき, $\int \rho_m^* \mathbf{er} \rho_n d\tau$ を状態 n, m
p.785	ソフト塩基 1行目	軟酸ともいう. 分極	軟 塩基 ともいう. 分極
p.786	ソフト酸 1行目	軟塩基ともいう. 比較	軟 酸 ともいう. 比較
p.790	第一級炭素原子 3行目	と結合していない C 原子や, $^*CH_3-CH_3$, $^*CH_3-CH_2^-$	と結合していない C 原子や, $^*CH_3-^*CH_3$, $^*CH_3-CH_2^-$
p.797	ダイヤモンド 2行目	炭素の同位体の一つ. 多少湾曲した面をもつ八面体	炭素の 同素体 の一つ. 多少湾曲した面をもつ八面体
p.859	超アクチノイド元素 10~11行目	ウンウンビウム	コペルニシウム
p.859	超ウラン元素 18行目	ウンウンビウム	コペルニシウム
p.868	チンダル 9行目	1852年 M.Faraday(ファラディ*)の後押しでロイ	1852年 M.Faraday(ファラデー *)の後押しでロイ
p.869	ツベット 21行目	ガス*, イオン交換*, 薄層*, 高速液体など, さまざ	ガス*, イオン交換*, 薄層*, 高性能液体* など, さまざ
p.881	DNAの構造図		
p.896	テトラヒドロホウ酸ナトリウム 5行目	ルに不溶, 水に可溶. 溶液は還元剤および H^- 源と	ルに不溶, 水に可溶. 溶液は還元剤および H^- イオン源 と
p.901	デュビニョー 15行目	であるオキシトシン*, バソプレシン*の化学構造に	であるオキシトシン*, バソプレ ッ シン*の化学構造に

p.902	デュマ・プレーグルの窒素定量の式	$2\text{CO}_2 \rightarrow 2\text{CO} + \text{O}_2$	$2\text{CO}_2 \rightleftharpoons 2\text{CO} + \text{O}_2$
p.935	デンドリマーの図	<p>Chemical structure of a dendrimer with 10 methyl groups. The structure is a branched tree-like molecule with a central carbon atom bonded to two methyl groups and two other carbon atoms. Each of these two carbon atoms is further branched, resulting in a total of 10 methyl groups.</p>	<p>Chemical structure of a dendrimer with 11 methyl groups. The structure is similar to the one in the previous cell, but with an additional methyl group. One of the methyl groups is circled in red.</p>
p.967	トリクロロ(エチレン)白金(II)酸カリウム 5~6行目	酸カリウム(potassium(trichlorido(η^2 -ethene)platinate(II)).	酸カリウム(potassium(trichlorido(η^2 -ethene)platinate(II))).
p.973	L-トリプトファン の欧文	[L-tryptophan]	[L-tryptophan]
p.974	トリメチルアルミニウム 2行目	$\text{Al}(\text{CH}_3)_2(72.09)$.	$\text{Al}(\text{CH}_3)_3(72.09)$.
p.994	鉛 13行目	典名 RaD)半減期 22.3 y(α 崩壊). 方鉛鉱*PbS, 白	典名 RaD)半減期 22.2 y(β 崩壊). 方鉛鉱*PbS, 白
p.1002	ニコチンアミドアデニンジヌクレオチド 5行目以降の図の位置	<p>よばれた. 下の表に示したような酸化還元酵素*の</p> <p>Chemical structure of NAD⁺ (Nicotinamide Adenine Dinucleotide). The structure shows a nicotinamide ring (oxidized form) attached to a ribose sugar, which is linked via a pyrophosphate bridge to another ribose sugar attached to an adenine ring. Labels indicate the nicotinamide mononucleotide and adenylic acid (adenine mononucleotide) components.</p> <p>補酵素*で, 構造式は以下のとおりである. NAD⁺</p>	<p>よばれた. 下の表に示したような酸化還元酵素*の補酵素*で, 構造式は次のとおりである. NAD⁺</p> <p>Chemical structure of NAD⁺ (Nicotinamide Adenine Dinucleotide). The structure shows a nicotinamide ring (oxidized form) attached to a ribose sugar, which is linked via a pyrophosphate bridge to another ribose sugar attached to an adenine ring. Labels indicate the nicotinamide mononucleotide and adenylic acid (adenine mononucleotide) components.</p>
p.1021	ニュートン粘性 11~12行目	る. このずれた流動, 流体, 粘性を非ニュートン流動, 非ニュートン液体, それぞれ非ニュートン粘性*	る. このずれた流動, 流体, 粘性をそれぞれ非ニュートン流動, 非ニュートン液体, 非ニュートン粘性*

p.1026	ニーレンバーグ 2行目	(1927.4.10-) アメリカの生化学者. フ	(1927.4.10-2010.1.15) アメリカの生化学者. フ
p.1026	ニンヒドリン反応 10行目	トグラフ*法において, ペプチドなどの検出反応に	トグラフィ-*において, ペプチドなどの検出反応に
p.1038	熱力学的温度 4行目	W.Thomas (Lord Kelvin)	W.Thomson (Lord Kelvin)
p.1043	粘土 右段 7行目	である. →陶土	である.
p.1052	バイアスタイヤ 7行目	車用タイヤでは 4~6 枚, トラック用, バスタイヤ用	車用タイヤでは 4~6 枚, トラック用, バス用タイヤ
p.1053	配位子場安定化エネルギーの式	$\left(\frac{6}{5} \times \frac{-2\Delta_o}{5} + \frac{4}{5} \times \frac{3\Delta_o}{5}\right) - 2 \times \frac{-2\Delta_o}{5} = \frac{-4\Delta_o}{5}$	$\left(\frac{6}{5} \times \frac{-2\Delta_o}{5} + \frac{4}{5} \times \frac{3\Delta_o}{5}\right) - 2 \times \frac{-2\Delta_o}{5} = \frac{4\Delta_o}{5}$
p.1069	ハース 3行目	マンチェスター大学で W.H.Perkin,Jr.(パーキン*)	マンチェスター大学で W.H.Perkin,Jr.
p.1085	パラケルスス 1行目	[Paracelsus, Theophrastus	[Paracelsus, Theophrastus
p.1094	ハロゲノホスファゼン 右段下から 2行目		...鎖状ポリホスファゼン : (PX ₂ = N) _n ...
p.1113	ビオラントロン の欧文	[violamthrone]	[violanthrone]
p.1114	ヒーガー 15行目	(UNIAX 社)を設立した. 2000年 MacDiramid,	(UNIAX 社)を設立した. 2000年 MacDiarmid,
p.1128	ビスブレーキング 1行目	石油クラック	サンドクラック
p.1148	pphm 1行目	part per hundred millions の略称. ppm	parts per hundred millions の略称. ppm
p.1148	ppm 1行目	part per millions の略称. 混合物や溶液中	parts per millions の略称. 混合物や溶液中
p.1149	ppt 1行目	part per trillion の略称. 1兆分の 1(10 ⁻¹²).	parts per trillion の略称. 1兆分の 1(10 ⁻¹²).
p.1149	ppb 1行目	part per billion の略称. 10億分の 1(10 ⁻⁹).	parts per billion の略称. 10億分の 1(10 ⁻⁹).
p.1152	112番元素	=ウンウンビウム	=コペルニシウム
p.1159	ピラジナミド右段 4行目	ラシド*と併用して使用される. [CAS98-96-4]	ラジド*と併用して使用される. [CAS98-96-4]
p.1163	ピリミジン 2行目	C ₄ H ₄ N ₃ (80.09). マロンジアルデヒド HCO-CH ₂ -	C ₄ H ₄ N ₂ (80.09). マロンジアルデヒド HCO-CH ₂ -

p.1195	不均化 3行目	反応をいう. 2分子のトルエンから, ゼオライト酸	反応をいう. 2分子のトルエンから, ゼオライト
p.1203	プソイドウリジン C の欧文	[pseudouridine]	[pseudouridine C]
p.1204	プタリド 項目名変更	プタリド	フ タリド
p.1209	フッ化硫黄 20行目	器, 高周波回路, 電子工業部品, 電子補そく剤*, 冷	器, 高周波回路, 電子工業部品, 電子 捕 そく剤*, 冷
p.1236	ブランケット 5行目	分裂核種* ²³³ U や ²³⁹ Pu を生成する. 核融合炉にお	分裂 性 核種* ²³³ U や ²³⁹ Pu を生成する. 核融合炉にお
p.1247	プルプロガリンの欧文	[purpurogalline]	[purpurogallin]
p.1248	プレグネノロン 10行目	ン*, プロゲステロン*などの合成で重要な中間体で	ン*, プ ロゲステロン*などの合成で重要な中間体で
p.1248	プレーグルの炭素微量定 量法 3行目	E.Pregl(プレーグル*)が 1913 年に発表した, 有機	E.Pregl(プレーグル*)が 1916 年に発表した, 有機
p.1316	ベンゾ[b]チオフェン 2行 目	C ₈ H ₆ S(134.20). チアナフテン, チオナフランとも	C ₈ H ₆ S(134.20). チアナフテン, チオナフ テ ンとも
p.1356	ポリアクリロニトリル 12行目	の濃厚水溶液, N,N -ジメチルホルムアミド*, ジメ	の濃厚水溶液, N,N -ジメチルホルムアミド*, ジメ
p.1356	ポリアセチレン 12行目	などのドーパント(導電体中キャリアー*(電子数)を)	などのドーパント(導電体中キャリ ヤ ー*(電子数)を)
p.1358	ポリイミド 3行目	無水ピロメリット酸*と芳香族ジアミン*との反応に	無水 ピロメリット酸 *と芳香族ジアミン*との反応に
p.1405	ミデカマイシン 2行目	(813.98). プラテノマイシン B ₁ ともいう. 放射菌	(813.98). プラテノマイシン B ₁ ともいう. 放線 菌
p.1406	μ(ミュー) 7行目	Cr-OH-Or(NH ₃) ₅ Cl ₅ は μ-ヒドロキソ-ビス(ペン	Cr-OH- Cr (NH ₃) ₅ Cl ₅ は μ-ヒドロキソ-ビス(ペン
p.1408	ミルセン の β-ミルセンの図	 <p>β-ミルセン [CAS 123-35-3]</p>	 <p>β-ミルセン [CAS 123-35-3]</p>
p.1416	メガ電子ボルト の欧文	[mega electon volt]	[mega elect r on volt]

p.1421	メタスズ酸(塩) 6行目	$H_2S_nO_3$ をメタスズ酸という。しかし、実際のメタ	H_2SnO_3 をメタスズ酸という。しかし、実際のメタ
p.1483	ラジオイムノアッセイ 4行目	などを放射性同位元素*(RI)で標識しておき、その	などを放射性同位体*(RI)で標識しておき、その
p.1507	リボ核酸 の図中, ウラシル(U)の図		
p.1514	硫化染料 11行目	結合させていることなどが推定されている。硫化染料	結合していることなどが推定されている。硫化染料
p.1551	ルミネセンス 8行目	光ルミネセンス*, 陰極線ルミネセンス*, X線ルミ	ホトルミネセンス*, 陰極線ルミネセンス*, X線ルミ
p.1563	レルワール 7行目	大学の C.F.Cori(コリ*)研究室やコロンビア大学で	大学の C.F.Cori 研究室やコロンビア大学で
p.1583	原子量表	64, Gd, Gadolinium, ガトリニウム, 157.25	64, Gd, Gadolinium, ガドリニウム, 157.25
p.1584	原子量表	112, Uub, Ununbium, ウンウンビウム*, (285)	112, Cn, Copernicium, コペルニシウム*, (285)
p.1593	主な核種表	87, ^{223}Fr , 22.00 min, β -99.994%,1.099, γ 0050,	87, ^{223}Fr , 22.00 min, β -99.994%,1.099, γ 0.050,